

J:おはようございます。

Jess:オハヨーゴザイマス。

J:ジェシカ、早速質問させてもらいますね。バイクに乗り始めてどのくらい経つのか?

Jess:丁度1年半だね。幼いころ、父親がダートバイクに乗っていて。兄ばかりが父親にライディングを習っていて、私は全く乗せてもらえなくて。そのせいか、バイクに乗りたい気持ちが潜在的に芽生えていたのか、自然と乗り始めた気がする。しかも今のバイクは、当時父親が乗ってたバイクに見た目がそっくりなの!

J:そうなんだね! 具体的に何故バイクの免許を取得しようと思ったの?

Jess:仕事をしていて疲れちゃって。ふと人生の方向転換をしたいなって思った時に、当時付き合ってた彼がライダーで、彼と別れてからライダーってカッコいいじゃん、て思ったのがきっかけかな。

J:現在の所有バイクを教えてください。

Jess:BMW650GS(2003年モデル)よ。

M:オーストラリアでは、免許を取得すればどんなサイズのバイクでも乗ることが可能なの?

Jess:制限はないよ。最初は排気量の低いバイクから入り、慣れてきたら大型のバイクに移行する人が多いみたいだね。テストは凄く簡単で、私の知る限り教習所などはないから、みんな両親や友達、恋人などから乗り方を教えてもらってる。

J:緩そうだと思うんだけどやっぱりそうなのね...

M:ヨーロッパではどこから旅を始めたの?

Jess:ドイツのベルリンよ。ベルリンでバイクを購入して、ドイツ国内をしばらく走った後、デンマークへ。本当は去年の秋ごろにヨーロッパツアーを終えるはずだったんだけど、予想外の事故や、それに伴う出費で予定通りに行かなくなってしまって、とにかく冬になる前にスカンジナビア半島やバルト三国、ポーランドをライドして、友人がいるハンガリーの首都ブダペストでバイクを駐輪させてもらって、一旦オーストラリアに戻り状況を整えてからヨーロッパに戻って、目標のヨーロッパツアーを達成したかったの。

J:今までに何か国ADVライドしたの? 国名を挙げてくれてもいいよ!

Jess:OK。ドイツ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、エストニア、ラトビア、リ



Jessica Zahra (ジェシカ・ザハラ) 25歳 / オーストラリア、メルボルン出身
▶ http://www.bikergirl.me
▶ 現在の彼女のバイク: BMW 650GS

ました!
そんな彼女は、当時ヨーロッパツアーの真つ最中でBMWのイベントに参加していました。若くして飛び込んだADVライダーの世界。期待の新星ADVライダー、ジェシカの世界観を覗いていきましょう!

トアニア、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、オーストラリア、イタリア、そして自国のオーストラリア。

J:この後ライドする予定の国は?

Jess:フランス、スペイン、ポルトガル、イギリス、アイルランド、アイスランド...。夏の間イギリスに行き、スコットランド北部やアイルランドを走る予定。そして秋になったらフランス、スペイン、ポルトガルへと南下して、出来ればモロッコも行きたいと思ってるよ!

J:将来最もバイクで走ってみたい国や場所を教えてください。

Jess:う〜ん、世界は広いからね。(しばらく考えた後)アフリカかな! もっとトレーニングしてからでないと難しいけど、アフリカを走るとワクワクする!

J:お〜! アフリカでも特に「ここ!」って国がある?

Jess:ボツワナかな。色んなADVライダーの記事を読んでみて、野生動物が沢山息する領域を駆け抜けるなんて、私にとっては凄く興味のある世界。J:素敵! 私は、その夢を実現させた後のジェシカにまたインタビューしたいなあ! では、ADVライディングをする達成目的などがあれば教えてください。

Jess:自分を自由の身に置くためかなあ。ずっと都会で仕事をしてきたけれど、ある時凄くプレッシャーに感じてしまって、ふと我に帰ったら疲れ果ててしまっていて。とにかく自由が好きで性格だし、アウトドア派だから、ADVライディングの世界に魅了されて。最初はADVライディングが何なのかわからない状態から世界に飛び込んでみただけ、ADVライダーに限らずライダーはみんなとても親切で、

困っていれば直ぐに手を差し伸べてくれて、お互い助け合い、このコミュニティが私をもの凄くハッピーにしてくれるの! 自分自身がハッピーでいられる状態が常に自分の目指すところであるのかなって思うんだよ!

J:う〜ん、深い! そしてカッコいいね! これから沢山のADVライダーに出会ったら、もっと世界が広がる予感がするね。

J:バイクに対する貴方の座右の銘は?

Jess:FREEDOM!!! この一言意外に考えられない!

J:今までADVライディングをした経緯で、事故に遭ったことがあると言っていたけど、その時の状況や心境を教えてください。

Jess:このバイクに乗り始めた頃、転んだりしたことは数えきれないほどあるけど、それは誰もが経験する初心者ライダーのハプニングだし、多くの人に助けってもらった。けれど、自分よりも重たいバイクの起こし方は絶対に学ばなければいけないと思ったよ。一番辛かった事故というハプニングは、去年ラトビアで自転車用の山道を走った時の事。山道の先端まで行き、戻ろうとしてUターンをしようとしたら、バランスを崩して足の上にバイクが覆いかぶさる状態で転倒してしまい、一時間近くその状態から抜け出せなかった。人気の少ない場所だったから叫んで助けを求めたものの人通りが全くなくて...。時間だけが過ぎていき、泣きながら何度もFワードを叫んでた。けれど時間と共に冷静さを取り戻していき、トップバッグの中身とバイクの積み荷を少しずつ降ろして行き、バイクの重量を減らして、どうにかバイクを少しだけ動かし、足を引き抜くことが出来た。火傷することなく、ひどい怪我を負うこともなく、ライディングブーツが私の足を守ってくれた。バイクを起こして荷物を積み直し、とにかくここを抜け出さないと、泣きながら持てる限りの力で来た山道を戻った。

J:ちょっと待って、誰一人として助けてくれなかったの?

Jess:戻ってる最中に女の人を通りかかった時に助けを求めただけだね、「No、No」の一点張りで、男性を呼んでくるから、と言って立ち去ったまま戻ってこなかった。

J:そんなひどいことある!? 女の子が一人で泣いて助けを求めてるって言うのにひどいよ!

M:ヨーロッパの東に行けば行くほど英語も通じないし、それが地方ならなおさら閉鎖的で、よそ者は怖いと感じる人もいると思うからね。

J:そうなんだね。でもひどいし、悲しいよ...

Jess:それから、最近サイドバッグを新調したんだけど、サイドバッグの幅に慣れてなくて、スーパーで石壁にぶつかって転倒しちゃって。その際に腰を痛め

Love Letter From USA!!
Girls Biker PARAVION
アドベンチャー
ADV
25歳という若さでADVライダーとなった彼女
こんにちはーAdventure(以下ADV)Rider(Jasmine)です。今回も世界で活躍する類稀なる女性ADVライダーを突撃インタビューしてきました!
前回号に引き続き、6月に参加したBMW Motorrad Days 2016(以下BMWイベント)で出会えたADVライダーを紹介したいと思います。
彼女はガールズバイカー10月号にスナップ写真で掲載させてもらったJessica Zahra(以下ジェシカ)。彼女に声を掛けたら、何とも聞き取りやすい英語を話すではないですか(ヨーロッパの大半の人々は英語が第二外国語なので、少し癖のある英語が第二外国語なので、少し癖のある英語を話されます)! インタビューを取りつけ話をしてみました、彼女はオーストラリア出身! オーストラリア英語にも耳慣れない私ですが、とても聞き取りやすい英語で、しかも彼女は第二外国語で日本語を勉強していたそう。日本にも留学経験があり、記憶の範囲で日本語も話せるのだから! 凄く楽しいインタビューになりました!



インタビューの後しばらくしてからスイスで再会!一緒にキャンプをしました



イギリス



アイスランド



アイスランドでワイルドキャンプ!寒そうだよ〜!



フランス、一晩で来客が...朝日に映える蜘蛛の巣...さっや〜



モロッコ

て、しばらくバイクを起こせずにいたの。何とかバイクを起こしてから、スーパーの駐車場で靴下と下着姿で腰をストレッチして、とにかく恥ずかしかったわ!

J:ジェシカ、貴方ワイルドね! しかも精神的に本当に強いね。

Jess:うん、そうかもしれない。でも、この状態では乗り足りないって思っていたからADVライドを継続できる原動力になったのかも。

M:ジェシカ、BMWのオフロードコースのクラスがドイツであるから、機会があったら受講してみたいと思うよ。僕はアメリカで受講したけど、週末にオフロードのテクニックを徹底的に教えてくれる。今まで受講したバイクのテクニックコースでは一番有意義なクラスだったよ!

J:女性ライダーが増えていく事に対してどのような見解がありますか?

Jess:それはもう、とても嬉しい!! 多くの女性ライダーから刺激をもらえるし、反面とても羨ましく思う。もっと自分にスキルや経験があればあって!「自分、自分」と聞こえるかもしれないけど、ベテランADVライダーに出会い、話を聞けば聞くほど、もっともっとっていつも思う!

J:ハングリー精神旺盛なんだね。心配ないよ、ジェシカは偉大なADVライダーになること間違いなし!では最後に、チャンスがあれば、日本をADVライドしてみたいと思ったことはありますか?

Jess:勿論!!!! 日本は大好きだもの!

J:嬉しい! ジェシカは日本に何度か訪れたことがあるって聞いたけど、現在日本という国や国民、文化に対して、どのような感覚をもっていますか?

Jess:私は旅行者やライダーとして日本を訪れたのではなく、交換留学生だったの。日本人でとても真面目で、でも凄く面白くて! オーストラリアとはまるで違う文化だと思った。私達はのんびりしてるし、

時間に拘束されない民族だけど、日本人の友達は、いつも決まって「今どこにいるの?」と聞いてきてくれて、そのたびに生真面目さがひしひしと感じられたよ。J:どこに交換留学生として住んでいたの?

Jess:2組のホストファミリーと過ごしたんだけど、名古屋郊外で3週間。そうちの1週間は男子学校に通ったの。たった一人の白人女性生徒で。とても貴重な体験をしたわ。その後、2週間を福岡で過ごしたかな。

J:私は愛知県出身だから名古屋は分かるよ!

Jess:お〜、そうなんだ! 今、後悔してることは、継続して日本語を勉強しておけば良かったって思ってるよ。日本のことがとても好きだから。

J:嬉しい! 私が日本人の友達になれたし、今からでも充分時間はあるよ!

Jess:YEAH〜! そうだね!

屈託のないジェシカの笑顔は、まるで少女のようで、希望に満ちたエネルギーを感じながらのインタビューでした。純粋で情熱溢れるジェシカに勇気と元気と若いエネルギーをもらい、おぼちゃん(←私です。笑)も負けていられぬ、頑張らねばっ! という気持ちになりました。

インタビューの後、ジェシカは目標のヨーロッパツアーを無事に終え、現在は自国のオーストラリアに帰国しています。期待の新星ライダーは、きっと今日も次の目標を目指し、ライダースキルを磨いているでしょう! またジェシカがADVライドに飛び出したら、彼女のJourneyを応援し見守っていきたいと思っています。

今回は我がアメリカ出身のベテランライダーを紹介したいと思います。お楽しみに!

living our dream, living my journey... I will see you again soon!!!

ADV

ガールズライダー♡

PICK UP!!

世界にはバイクで旅をする女子ライダーがたくさんいます。そんな彼女たちに焦点を当て、色々聞いてみます!

PHOTO & TEXT / jasmine T Cardwell



jasmine T Cardwell

2006年にカリフォルニア州はサンディエゴに単身渡米。現在の旦那マイケルとの出会いをきっかけに2011年バイクの免許を取得。以来アドベンチャーライダーに急変身! アメリカのライダー事情を中心にjasmine目録のADVストーリーを皆さんにお届けします

アドベンチャーライディングって?



何が起るかわからない、どんな出会いがあるかわからない...。どんなに険しい山道も、砂漠も、森の中も、川の中も、大都会も、秘境の地も、如何なる天候であろうが、如何なるコンディションであろうが、Two-wheeler(自動二輪)に必要な最低限かつ必要最大限の夢と希望を詰め込んで、世界をどこまでもひた走る...。それがアドベンチャー・ライダー



フィンランドにて。アドベンチャーライディングでは、時にこんな水の中だって走る。道なき道を走らねばならないときもあるんです